

前年度（令和3年度）の学校評価

ア 自己評価結果等

本年度の重点目標		<ul style="list-style-type: none"> ・甘えのない文武両道を実践し、心豊かで逞しい人間力を育てる。 ・自主的、主体的に教育活動に参画する中で、高い志を持ち続け、常に自らを向上させようとする態度を身に付けさせる。 ・BYOD導入に向けて、情報リテラシーを向上させるとともに、情報モラルを身に付けさせる。 ・地域や同窓会との絆を一層深めて、地域の拠点校たる自覚をもって、教育活動を推進する。 ・教育相談及び特別支援教育の機能を高めるための校内体制を整え、活用する。 		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題	
学習指導 (教務部) (進路指導部) (学年会) (各教科会)	①進路実現に必要な学力の定着と家庭での学習時間の確保	授業内容や生徒の姿に応じてICTを活用し、魅力ある授業を展開する。また、ICTを主体的に学習する姿勢を身につけさせる道具として活用する。	端末（スマホ・タブレット等）の取り扱いのルール、教員の周知事項・確認事項を決め、校内LAN接続するなど、ICT環境が整いつつある。令和4年度より1人1台端末利用に向けて準備を進めている。	
	②新しい時代に必要となる資質・能力の育成	自立した人間として、他者と協働しながら創造的に生きていくための資質・能力の養成を図る。	授業において、ICTの活用・グループ活動・発表活動が多く取り入れられ主体的な学習が身につけていると思われる。	
	③教員研修の充実、授業の改善	研究授業や公開授業をとおして、授業内容の改善を図る。	生徒が主体的に活動している研究授業が多く見られた。今後も研究授業等を通して授業改善を図りたい。	
進路指導 (教務部) (図書・研修部) (進路指導部) (学年会) (各教科会)	①3年間を見通した系統的進路指導計画の確立	生徒・保護者の進路意識の変化に対応できるよう、学年間の連携を密にし、系統性のある進路指導体制を作る。	新しい取り組みがいくつか見られた。総合的な探究の時間とLTを効果的に活用できるよう3年間の指導の流れの構築を進めたい。	
	②生徒及び教員の進路意識の高揚	本校のあり方に関する教員間の共通理解を促進させる。	オンライン研修会等を通じて多くの教員に情報の共有が図れた。業者の研究会等の開催情報を、広く広める方法を模索したい。	
	③理数教育・国際理解教育の充実	大学や研究機関との連携を積極的に図る。外部講師を招いての講義や外国の学校との生徒交流を充実させる。	昨年度に続いて海外派遣を実施することはできなかったが、オンラインを活用しながら、一昨年度に近い内容と規模で事業を進めることができた。生徒がさらに能動的に取り組むように立案、運営を進めたい。	
生徒指導 (生徒指導部) (保健部) (学年会)	①いじめの早期発見・早期対応	いじめを把握するために心のアンケートを学期に1回実施する。	アンケートだけに終わらず、普段からいじめや悩みを周囲に相談しやすい雰囲気づくりに努めていきたい。	
	②心身ともに健康的な学校生活の確保	相談活動を充実させ、生徒の心の問題に適切に対応する。スクールカウンセラーを有効活用する。	相談室を機能させ、係が生徒からの相談を受けることができた。スクールカウンセラーにつなげたり、助言を受けたりして対応することができた。	
	③清潔な生活環境の整備	美化意識を高め、積極的な清掃活動を推進する。	ごみの分別指導をし、かなり定着させることができた。校内の美化活動を拡大させたい。	
その他 (総務部) (特別活動部) (教務部)	①家庭、地域や同窓会との緊密な連携	西尾高校だよりや学校のホームページを充実させ、情報発信を工夫する。	西尾高校だよりは、内容の充実が図れた。学校ホームページは、さらに情報の更新頻度を高めていく。	
	②部活動と学習の両立	目標や計画を立て、効果的な練習方法を確立する。部顧問会を必要に応じて開催し、課題に対処する。	感染症予防に配慮しながら効果的に活動を進め、各種大会でも好成績を残すことができた。今後の部活動の在り方について、教員の意見交換をさらに深めていく必要がある。	
	③校務のICT化と個人情報管理	情報管理の徹底とメソフィアを中心としたネットワークを活用する。	愛知県立学校情報セキュリティポリシーを再確認し、生徒情報の管理の徹底を図っていく。	
学年	3年	生徒個々に応じた進路実現	多様な生徒に対して、全体指導・個別指導・進路講演会等を通して、適切な指導・助言を与える。	生徒それぞれの多様な実態を踏まえながら進路指導を展開することができたが、集団として受験に向かっていく雰囲気を作ることもできるとよかった。
	2年	生徒個々に応じた学力の充実と進路学習	進路行事・面接を充実させ、総合的な学習とも連携しつつ授業・課題を密接に連携させ学力充実を図る。	面談・集会を通じて進路目標の具体化を進めた。客観性を持った学習習慣の活率をより進めたい。生徒にはより一層の能動的姿勢を求めたい。
	1年	適切な類型（文理）選択	面接や講演会を通じて将来像をえがく。職業や大学の研究を行う。	面談・進路講演会・学年集会といった機会に加えて、学問調べの課題を与え、LTで深めるといった取り組みを行ったことで、次年度に向けての類型選択ができた。来年度はより具体的な進路目標を立てさせたい。
総合評価		<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用については環境が整い、実践においてはBYODを中心とした実践に向け、校内ルールの策定、生徒等への周知を進めることができ、多くの授業でその活用が広がっている。 ・相談室に業後に基本的に係の教員が常駐する校内体制を構築することでその機能の充実を図ることができた。その結果、生徒が日常的に相談でき、スクールカウンセラーにつなげ、適切な助言を迅速に受け、対応することができた。 ・個人情報の管理では、教職員に愛知県立学校情報セキュリティポリシー等の周知を徹底することができなかった。来年度は個人情報等の取り扱いについて校内整備を整える必要がある。 		

イ 学校関係者評価結果等

<p>学校関係者評価を実施した主な評価項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力を充実させ、自ら思考する力を養うとともに、個に応じた指導が展開できたか。 ・授業等で情報機器を活用する中で、情報リテラシーを向上させることができたか。 ・観点別評価に係る研究を推進するとともに、観点別評価を試行して改善点等を把握することができたか。 ・全校で情報を共有し、職員間の連携を図りながら、業務に取り組むことができたか。 ・教員の働き方改革を踏まえて、日常業務の見直しに関する取組を進めることができたか。
<p>自己評価結果について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科において熱心な教材研究や教員間の情報共有が行われて、思考力・読解力・判断力を養うことを意識した多様な授業形態が展開されている。 ・ロイロノート等を生徒が積極的に活用する中で、徐々に情報リテラシーは向上している。 ・観点別評価の各項目の割合等の基準作りは進みつつあるが、具体的な評価方法についての準備まで至っていない教科もある。 ・分掌・学年を超えた協働体制が見られるが、組織としてはまだまだ分掌間の縦割り意識がある部分があった。 ・業務の平準化には課題は残るが、職員室の施錠時刻に合わせてその日の仕事を調整し退校することは習慣として定着しつつある。
<p>今後の改善方策について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用することで、授業内容がかなり理解しやすくなっていると考えられる。今後、解く・考える・話し合う時間を中心とした授業改善をしていく必要がある。 ・今後も継続的に情報の活用手段・活用能力を身に付けさせ、セキュリティの確保、情報モラルの向上に向け教員も含め研修をしていく必要がある。 ・全校で情報共有しながら、具体的な評価項目等について各教科内で検討、実施を進めていく必要がある。 ・ICTを活用して、職員間の情報共有や業務の効率化を進める体制の構築が必要である。 ・今後も行事の精選と同時に業務の平準化にも積極的に取り組む必要がある。
<p>その他（学校関係者評価委員会から出された主な意見、要望）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員自体が校訓「進取」の気質をもって教育活動にあたられたい。 ・中高人事交流の活用や、県立・市立の垣根を越えて、小中学校との連携を深めてほしい。 ・小中学校では少人数学級の効果が出なくなっている。少人数学級の効果測定が必要。 ・観点別評価は定期テストで測定ができない部分が大きい。また、観点別の評価基準はあらかじめ生徒に示す必要がある。 ・子どもは家庭で育て、学校で教え、地域で見守る。学校が子供の教育全部を被る必要はない。 ・ICTを活用することは大切であるので、その方向付けと実践を先生方に期待する。 ・本校の卒業生は大人になっても西高生同士のつながりを大切にしている。その意味で、彼らの絆を深める学校行事は大切にしてもらいたい。
<p>学校関係者評価委員会の構成及び評価時期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・構成…学校評議員4名、学校関係者（保護者代表）3名 ・評価時期…3月上旬